

## 問いのアトリエ

キーワード：自分の問い、問いの協働生成、問いの進化、表現活動としての問いづくり

中岡晃也（タイワビト主宰）

本ワークショップは、参加者一人一人が、自分の問いをつくり、見せ、そして、その問いが、より自分自身が問いたい問いになるようにともに進化させていくワークショップです。

本ワークショップは一般的な哲学カフェに見られるような「一つの問いについて、哲学対話をする」という活動ではなく、参加者一人一人が自分自身の問いを立てる/つくることをねらいとしています。タイワビト（中岡主宰の団体）の一つの活動として、2016年5月から月に2回ほどのペースで（毎月、新月と満月の夜に）開催しております。

対話のための問いをつくるというのも楽しい作業ではありますが、本気で自分自身の問いをつくるとなると、その楽しさに加えて、日常では滅多に行われない類の省察や検討が必要となります。

また、どんな問いが正しいか、どんな問いはまちがっているかとか、深い問いだとか浅い問いだとか、一般的だとかそうでない、などの価値判断は断固として退けられます。重要なのは、自分自身の問いたい気持ち、問いたいことが、どれだけ一つの問いに表現されているかどうかです。自分の問いをつくるという行為は創造と洗練の作業です。わたしは暫定的に、自分の問いづくりを「精神の彫刻」と表したりしています。

自分の問いを立ててみたい、自分の考えを整理したい、心のもやもやをスッキリさせたいなど、さまざまな背景を持った参加者を歓迎します。

ひとりひとりの問いに集中することに多くの時間を費やすので、参加人数は限られますが、参加者に影響がないカタチで人数が許す限りの見学者は歓迎します。

みなさまとともに問いをつくっていけること、そして、その活動から考えられることを話し合えることを楽しみにしています。

（なかおか・こうや）

1989年 北海道生まれ。2009年より「対話」に関心を持ち、研究と実践を開始する。300を超えるさまざまなテーマのワークショップへの参加経験と実施経験から、社会問題の源泉を「非対話的な身体性」と捉え、その糸口として「問い」に着目した活動（問いの教室、問いのアトリエ、問いのセッションなど）を2015年から本格化している。